

## 吉村 正 追悼写真集



2005年 photo : Sakae Kikuchi

「自宅風分娩」のひとつま→  
自宅分娩と緊急に医療的処置が  
出来るという両方の良さを生か  
した画期的な取り組みでした。  
(1990年頃)

※「自宅風分娩」については、  
「お産って自然でなくっちゃね  
—ある産科医の真実の提言」  
(健康双書 1993年発行)  
をご参考ください。



お産の直後の母と子。  
撮影：吉村 正



↑生まれて数分でこのように目をぱっちりとする  
赤ちゃんも珍しくありません。  
2005年2月7日、吉村医院分娩室にて



2007年11月17日  
吉村医院和室分娩室にて↑→  
上のお子さんが  
お産に立ち会う場合もあります。



↓助産所詰所でのひととき。



幸田町の里山の風景をいたく気に入り、お産がない時はできる限り訪れては写真を撮っていました。2000年には、その素晴らしさについての講演を依頼され、町民会館にてお話をさせていただいたこともありました。

院内の両親学級でもこのような里山の写真をお見せし、その美しさについてよく語っていましたが、自然の何気ない姿のなかに美しさを見いだすことのできる感性の大切さを伝えようとしていたのではないかと……と思われてなりません。

左上と右の写真／撮影：吉村 正





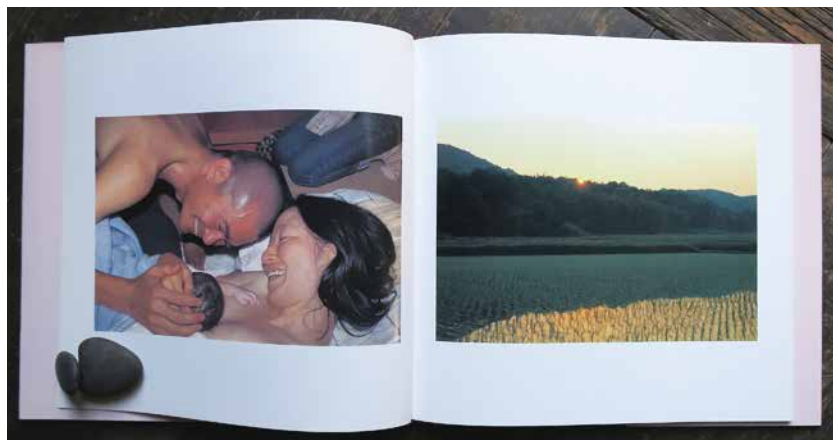
幸田町にて。ある朝、お婆さんが向こうからやってきて立ち止まり、夕日に向かって手を合わせたのだそうです。  
 その姿に感動して夢中でシャッターを切ったとか。  
 ご利益のあるなしでなく、自然に湧き上がるこんな畏敬の姿こそ日本人の本来の在り方ではなかったか……両親学級でこの写真を見せながらそんな話をしていました。こんな心で生きられたら、自然にいいお産もできるのではないかと、というようなことを言っていたように思い出されます。



## 「幸せなお産」 写真／吉村 正

現代書館 2007年発行

28のお産直後の写真と  
14の里山の風景写真で  
構成した写真集。



山の端から日が昇るさまを、まるでお産そのものだと父はよく言っていました。  
 昇るべきとき昇ってくる朝日—それは押しとどめることも、早めることも出来ないものだと……。

このページの全写真／撮影：吉村 正